

政党支持の安定性と情報行動

——政治・社会意識と情報行動に関する共同実証研究(4)——

早稲田大学 田辺俊介

1 目的

本報告では政党支持について、特に情報行動との関連から検討する。近年、政党支持という概念それ自体が、投票行動の予測力の低下などから政治学において「不要論」も出ている（谷口 2012）。一方、特にここ数回の国政選挙では全体の投票率が下がった結果、固定的な支持層を確保している自民党（と公明党）の連立与党は勝利を続けており、安定的で固定的な支持層の政治的影響力はむしろ増している。そこでそのような政党支持について、特にパネル調査を用いることで安定的な支持層を抽出した上で、その安定性の程度を確認した上で、安定的な支持層とその他の人々の違いについて、情報行動の側面から検討する。それによって特定の情報行動と政治意識や行動の間の具体的な関連を明らかにする。

2 方法

本報告ではパネル回答者のデータを用いる。従属変数は以下のように作成した。まず 2017 年調査の設問で尋ねた 17 年衆議院選挙投票先と 2018 年調査の「今の日本の政党のなかで、あなたはどの政党を支持していますか」との設問において、連続して自民党を選択した人を「自民支持安定層」（427 ケース、16.0%）とし、また連続して立憲民主党を選択した人を「立民支持安定層」（114 ケース、4.3%）とする。一方 17 年の衆院選で投票せず、18 年調査で「支持する政党はない」と回答した人々も「安定的無党派層」（516 ケース、19.3%）と操作化した。その他政党への投票と支持で一貫した人々（118 ケース、4.4%）も除いた上で、残りの流動層（1497 ケース、56.0%）との比較から、安定的な政党支持層の特徴を、特に情報行動の側面から検討する。なお政党支持の規定要因としては、従来から社会・経済的地位の影響が論じられてきたが、近年はむしろ価値意識による分断が広がっているとも論じられている（田辺 2018 等）。ただ、そのような価値意識も固定的なものではなく、特定の情報行動などによって変化すると考えられるため、政党支持と関連する価値意識と情報行動の関連も含めた構造方程式モデルによる分析を行う。

3 結果

分析の結果、特に「自民支持安定層」において、情報行動やメディアに対する意識、さらには特定の価値意識との間に比較的強い特徴が見られた。具体的には、既存マスメディア（特にテレビ）への不信感が高く、一方でネット情報への信頼感が高い人々は、（流動層に比べて）自民支持安定層になりやすかった。また情報行動としては Twitter のまとめサイトの閲覧頻度が高い人々は自国中心主義が強くなりやすく、結果的に自民支持安定層になりやすい傾向があった。一方、立民支持安定層は排外主義が弱い傾向はあるが情報行動には明確な傾向は少なく、自民安定層が情報行動や価値意識の面で他の政党支持層に比べて特徴的な事が示された。

4 結論

近年の連続した選挙の勝利に比して、そもそも安定的に自民党を支持する層はそれほど多くない。一方、その安定層は他政党の安定支持層や流動層、安定的無党派層と比べても特定の情報行動を取りやすく、また価値意識の面でも一般的に「強い」と考えられるナショナリズムを抱いている様子が示された。

谷口将紀, 2012, 『政党支持の理論』岩波書店

田辺俊介, 2018, 「政党支持と社会階層の関連構造」小林大祐編『2015 年 SSM 調査報告書 9 意識Ⅱ』:133-150.